

YAMAHA Electone® *Classic*

F-700

取扱説明書

各部の名称

パネルライト(⇒15ページ)

クレッシェンドディスプレイ(⇒12~13ページ)

グレート鍵盤用ストップ(⇒6~9ページ)

スウェル鍵盤用ストップ(⇒6~9ページ)

ペダル鍵盤用ストップ(⇒6~9ページ)

マスターボリューム(⇒15ページ)

ホールデブス(⇒14ページ)

ホールタイプ(⇒14ページ)

カスタムトーンバック装着ボックス(⇒6ページ)

パワースイッチ(⇒15ページ)

MPC-10受信ユニット
接続用コネクター(⇒5ページ)

スウェル鍵盤

キャンセル(⇒11ページ)

コンビネーション(⇒10~11ページ)

グレート鍵盤

リードオフ(⇒11ページ)

フルオルガン(⇒11ページ)

クレッシェンドセット(⇒12~13ページ)

フットライト(⇒15ページ)

フルオルガン・トゥピストン(⇒11ページ)

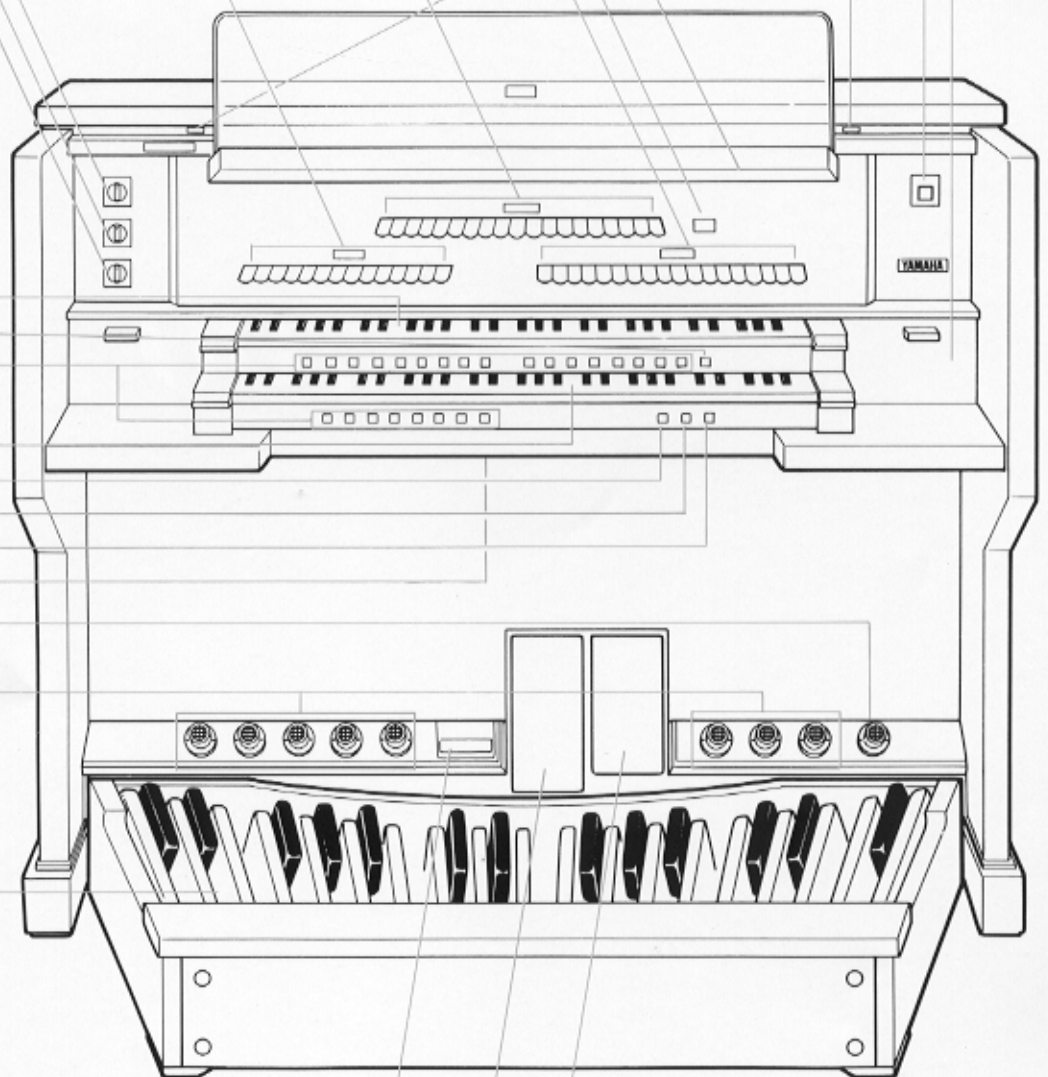
コンビネーション・トゥピストン(⇒10~11ページ)

ペダル鍵盤

フットレスト

エクスペッションペダル(⇒15ページ)

クレッシェンドペダル(⇒12~13ページ)



このたびは、ヤマハエレクトーンクラシックF-700をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ヤマハエレクトーンクラシックF-700は、当社が独自に開発した最新の電子技術と、永年にわたり培ってきた楽器づくりのノウハウを結集し、総力をあげて完成させたフルスケールモデルの電子オルガンです。

F-700では、特に音質の飛躍的な向上をはかるため、AWM(アドバンスド・ウェーブ・メモリー)というヤマハ独自の音源方式を全面的に導入しました。これにより、従来の電子オルガンでは成し得なかった、パイプオルガンそのままの自然な音色、荘厳な響きが実現されました。鍵盤機構には、トラッカータッチに極めて近いトグルタッチを採用しており、また、新方式のホール効果は、立体的で広がりのある音場を創出します。さらに、電子オルガンならではのフリーセッティング方式によるコンビネーションとクレッシェンドは、操作性を高めるとともに、より多彩な音楽表現を可能にしています。

演奏にあたりましては、F-700の幅広い表現力を存分に引き出していただくため、また、正しく安全にお取り扱いいただくため、必ず本書をよくお読みくださるよう、お願い申し上げます。

● 目次

取扱上の注意	2
接続方法	4
操作方法	● 音色ストップ
	● 効果ストップ
	● ストップ一覧
	● コンビネーション
	● フルオルガン・リードオフ
	● クレッシェンド
	● ホール効果
	● その他の機能
故障だとお考えになる前に	16
仕様	17
MIDIについて	18
アフターサービスと保証	20

※本文中の☐は補足事項、Ⓢは操作上注意を要する事項です。

電源について

- 電源は必ずAC100V(50Hzまたは60Hz)をご使用ください。AC100V以外の電源は、絶対にご使用にならないでください。
- 落雷などのおそれがある場合は、早めに電源プラグをコンセントから抜き取ってください。
- 長期間ご使用にならない時は、電源プラグをコンセントから抜き取ってください。
- 消費電力の大きな機器・器具と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をする、誤動作することがありますので、ご注意ください。

電源プラグ・電源コードの扱いについて

- ぬれた手で電源プラグにふれると、感電するおそれがありますので、充分ご注意ください。
- コードの断線やショートを防ぐため、電源コードをコンセントから抜く時は、プラグ部分を持って抜いてください。
- 電源コードの上に物を乗せたり、踏みつけたりしないでください。
- 電源コードの継ぎ足しは、危険ですからおやめください。

接続について

- 本機の接続は、必ず、接続するすべての機器の電源スイッチを切った状態で行ってください。
- アンプ・スピーカーなどの機器と接続する際は、本書の「接続方法」の項をよく読み、正しく接続してください。

改造・部品交換について

- ご自分で機器の改造を行ったり、部品を取り外すことは、大変危険ですので、絶対に避けてください。
- 修理などでの部品交換は、サービス技術者が行います。

取り扱いについて

- ペロースイッチやボタン、スイッチ類に無理な力を加えることは避けてください。
- 断線やショートを防ぐため、接続コード・ケーブルを端子・ソケットから抜く時は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。
- 隙間から金属や紙などを差し込んだり、落としたりしないようご注意ください。
- 内部に水などが入ってしまった時は、ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター・サービスステーションまでご連絡ください。

設置場所について

- 直射日光は避けてください。
- 暖房器具、送風口の近くには設置しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所や、温度の特に低い場所も避けてください。
- 薬品を使う場所や、薬品にふれる可能性のある場所は避けてください。

外装のお手入れについて

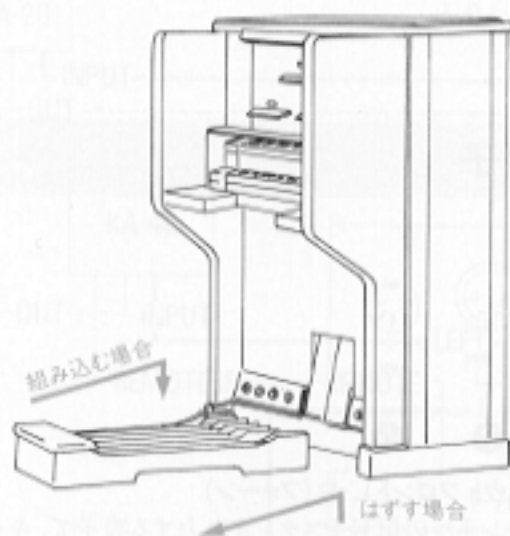
- 外装・鍵盤のお手入れは、必ず、柔らかい布で乾拭きしてください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は、絶対に避けてください。また、化学ぞうきんなども避けてください。
- 汚れが特にひどい場合は、水で薄めた台所用中性洗剤に布をひたし、よく絞ってから汚れを拭きとってください。その後乾いた布で仕上げてください。

他の電気機器への影響について

- 本機はデジタル回路を多用しているため、ごく近くで他の電気機器を同時に使用すると、雑音が生じることがあります。他の電気機器とは、充分に離してご使用ください。

万一異常が生じた場合は

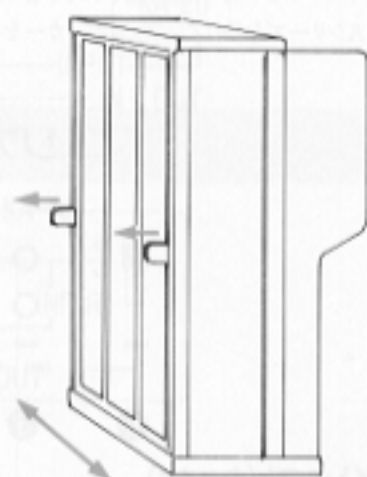
- 異常なおい煙が出た場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜き、お求めの販売店、もしくは電音サービスセンター・サービスステーションまでご連絡ください。
- 機器のヒューズがとんだと思われる場合も、お求めの販売店もしくは電音サービスセンター・サービスステーションまでご連絡ください。



ペダル鍵盤の脱着方法

ペダル鍵盤はユニット式になっており、本体から簡単に取り外すことができます。取り外し、取り付けの際には、次の点に注意してください。

- 必ず、2人で持つようにしてください。また、無理な力を加えないでください。
- 取り外し：最初少し持ち上げ、手前に引き出してください。
- 取り付け：そのまま押し込むのではなく、少し持ち上げてから、本体にはめ込んでください。
- 取り外し、取り付けの際、本体にキズを付けないように注意してください。



運搬・移動の際には

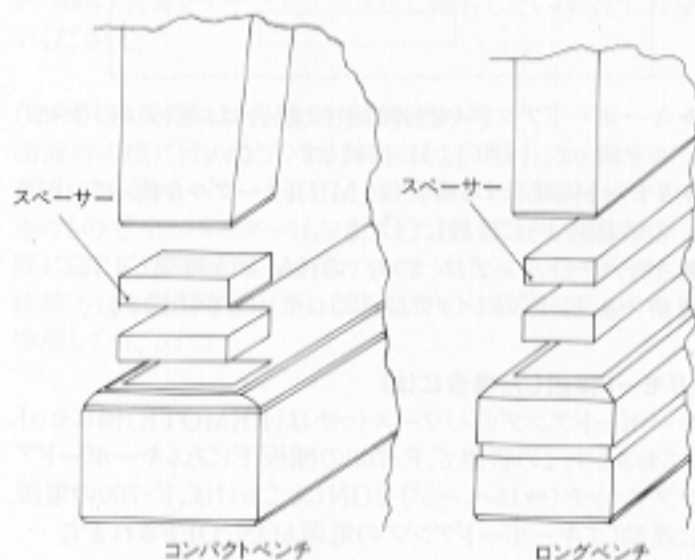
F-700を運搬・移動する際には、以下の点に注意してください。

- まず、電源プラグをコンセントから抜き、電源コードを束ねてください。
- 他の機器と接続しているコード・ケーブル類は、すべて取り外してください。
- ペダル鍵盤を、左記の方法で取り外してください。
- 背面の両側に、移動用の取っ手が付いていますから、引き出してお使いください。
- 底面に付いているキャスターは、横方向に回転するようになっていますから、横に移動させると楽に動きます。

椅子の高低調整

F-700の椅子には、2種類のペダル鍵盤に応じて、コンパクトベンチ（扇型のペダル鍵盤用）もしくはロングベンチ（平行型のペダル鍵盤用）のいずれかが、セットとなって用意されています。どちらの椅子も高さを数段階に調整してご使用になれます。

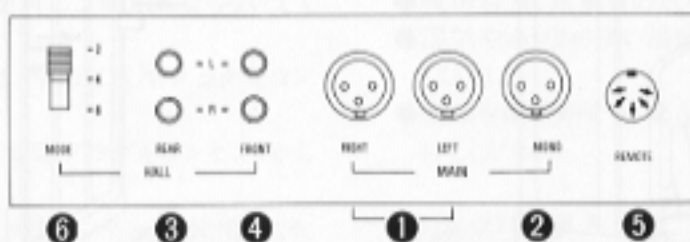
- 低位置：何もつけない状態。
- 中位置：椅子台を取り付けた状態。
- 高位置：取り付けた椅子台の中に、スペーサーを入れた状態。スペーサーは、コンパクトベンチに8枚、ロングベンチに4枚用意されており、すべてのスペーサーを2枚重ねて入れた時が最も高い状態になります（右図参照）。それよりやや低くしたい場合は、スペーサーを半分にしてください。



接続方法

F-700には、パワーアンプ・スピーカーは内蔵されていません。ヘッドホンだけを使用する時以外は、キーボードアンプKAシリーズなどのアンプ・スピーカーを接続してください。

リアパネルの出力端子



①メインアウト ライト・レフト(キャノン)

メインチャンネルの信号をステレオ出力する端子で、キーボードアンプなどを2台以上接続する場合に使用します。

②メインアウト モノ(キャノン)

メインチャンネルの信号を出力する端子で、キーボードアンプなどを1台のみ接続する場合に使用します。

③ホールアウト リアL・R(フォーン)

リアチャンネルの信号をステレオ出力する端子で、キーボードアンプなどを4台以上接続する場合に使用します。

④ホールアウト フロントL・R(フォーン)

フロントチャンネルの信号をステレオ出力する端子で、キーボードアンプなどを6台以上接続する場合に使用します。

⑤リモート(DIN5ピン)

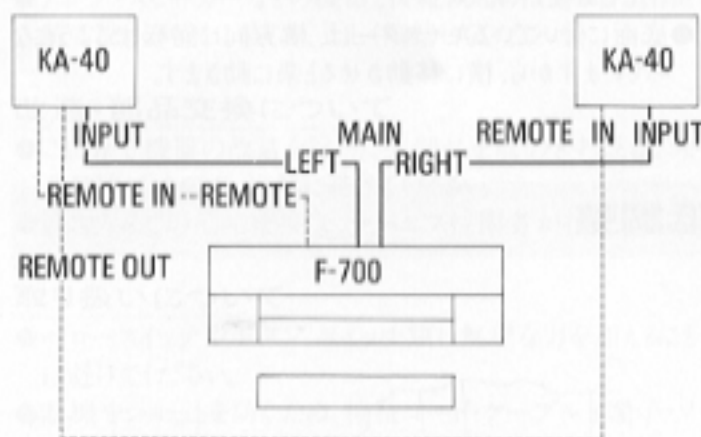
キーボードアンプとリモート接続し、F-700の電源に連動してキーボードアンプの電源もON/OFFしたい場合に使用します。なお、接続にはMIDIケーブルを使います。

⑥ホールモードスイッチ

接続しているアンプ・スピーカーの台数に応じてセットするスイッチです。(詳しくは14ページを参照。)

接続例

●キーボードアンプを2台接続する場合

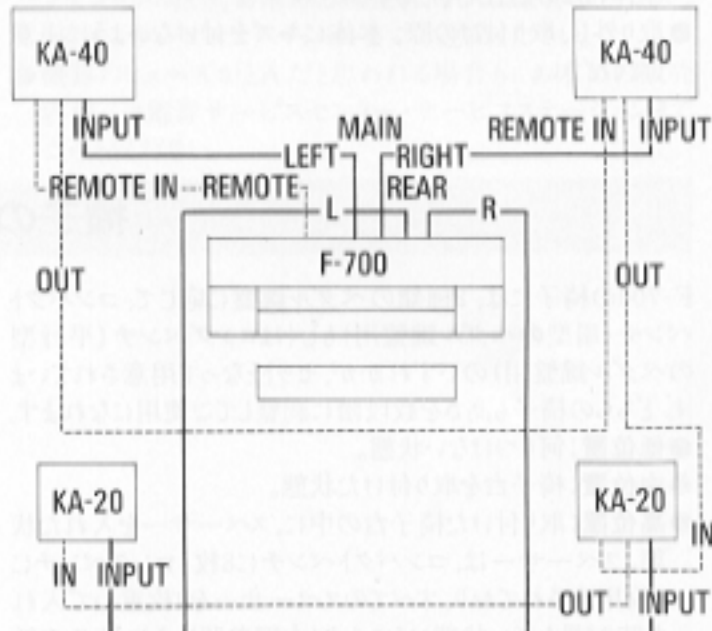


- ▶ キーボードアンプを2台接続する場合は、キャノンのケーブルを使って、上図のように接続してください。
- ▶ リモート接続をする場合は、MIDIケーブルを使って、上図の破線のように接続してください。
- ▶ キーボードアンプは、ヤマハのKA-40を推奨します。
- ▶ ホールモードのスイッチは、(2)にセットしてください。

[リモート接続した場合には]

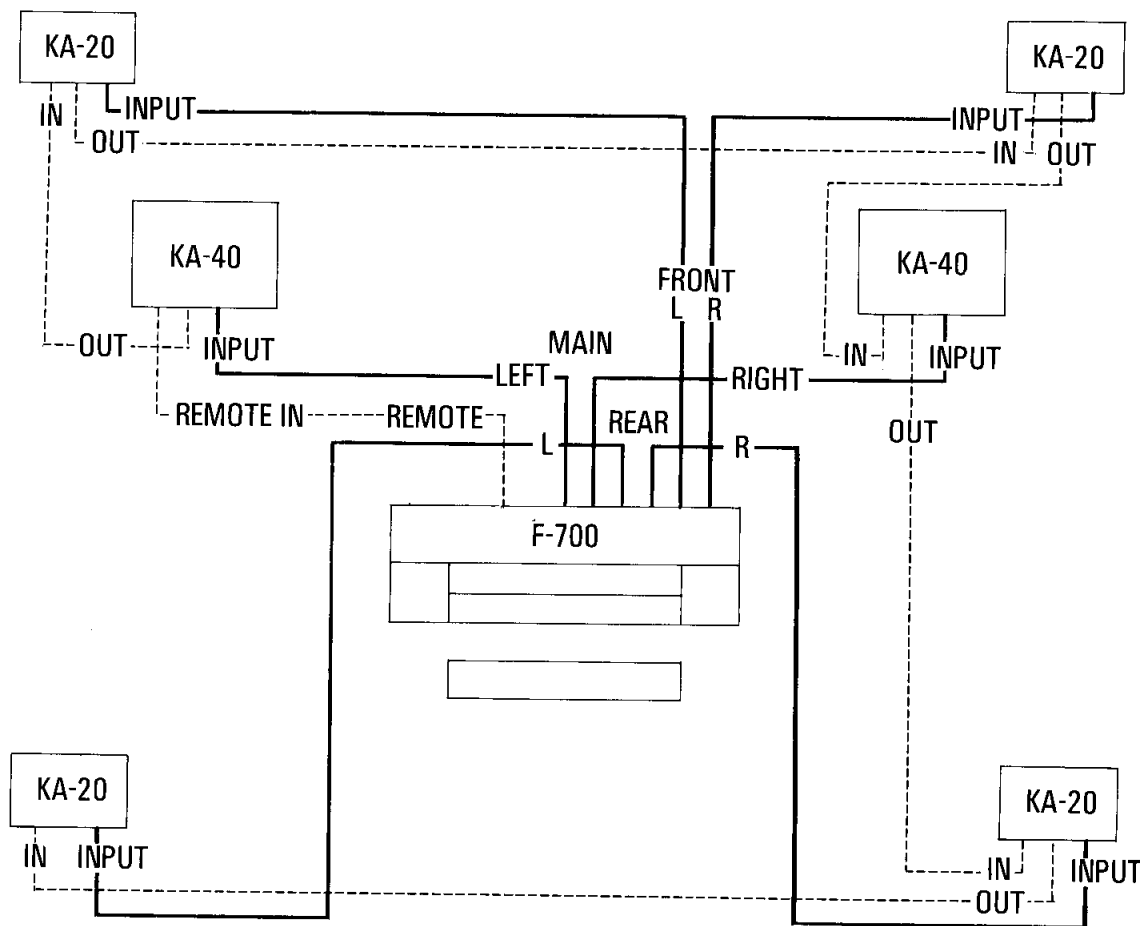
キーボードアンプのパワースイッチは(REMOTE)側にセットしておきます。この状態で、F-700の棚板下にあるキーボードアンプスイッチ(⇒15ページ)をONにしておけば、F-700の電源に連動してキーボードアンプの電源もON/OFFされます。

●キーボードアンプを4台接続する場合



- ▶ キーボードアンプを4台接続する場合は、メインに加えて、リア用のキーボードアンプを接続します。(リモート接続のIN/OUTは、順不同でかまいません。)
- ▶ リア用のキーボードアンプは、できるだけ高い位置に設置してください。
- ▶ リア用のキーボードアンプにはKA-20またはKA-10を推奨します。
- ▶ ホールモードのスイッチは、(4)にセットしてください。

●キーボードアンプを6台接続する場合

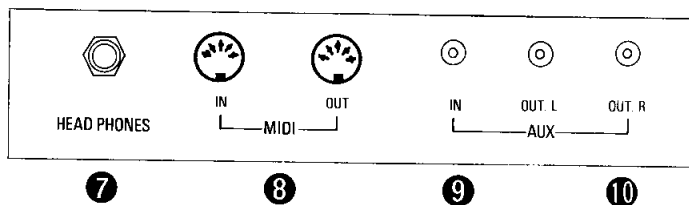


- ▶キーボードアンプを6台接続する場合は、メインとリアに加えて、フロント用のキーボードアンプを接続します。(リモート接続のIN/OUTは、順不同でかまいません。)
- ▶フロント用のキーボードアンプも、リア用と同様に、できるだけ高い位置に設置してください。

- ▶フロント用のキーボードアンプにはKA-20またはKA-10を推奨します。
- ▶ホールモードのスイッチは、[6]にセットしてください。

その他の機器との接続

[棚板下の端子]



⑦ヘッドホン

ヘッドホンを接続する端子です。エレクトーン用のステレオヘッドホンをお使いください。(ヘッドホン以外の機器を接続することは避けてください。)

⑧MIDI イン・アウト

MIDI対応機器と各種データをやりとりする時に接続する端子です。MIDI対応レコーダーと接続する場合は、2本のMIDIケーブルを使って、F-700の[MIDI OUT]とレコーダーの[MIDI IN]、F-700の[MIDI IN]とレコーダーの[MIDI OUT]を相互に接続します。(→18ページ)

⑨オックス イン

外部機器からのオーディオ信号を入力する端子です。

⑩オックス アウト L・R

外部機器にF-700のオーディオ信号を出力する端子です。F-700の演奏をテープレコーダーに録音したい時などにお使いください。

[MPC-10受信ユニット接続用コネクター]

譜面台の横に付いているコネクターは、オプションのミュージックプレイコントローラーMPC-10の受信ユニットを接続するためのものです。コネクターは左右に2つ付いており、操作する位置に応じて、どちらにでも接続できるようになっています。(詳しい接続方法と使用方法については、MPC-10の取扱説明書を参照してください。)

15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
Holz-Principal 8'	High-Flute 8'	Vox Celeste 8'	Soft-Principal 4'	Rein-Sort 4'	Nasat 2 2/3'	Principal 2'	Flack-Flute 2'	Quire 1 1/2'	Scour 3f

PEDAL

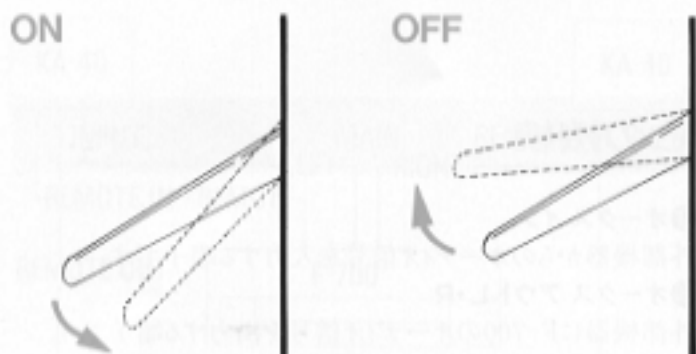
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
Principal 10'	Strings 10'	Principal 8'	Spill-Flute 8'	Choral-Bass 4'	Mixtur 4f	Compound	Posaune 10'	Trumpet 8'	Custom I	Custom II	Soft	SWELL to Pedal	Great to Pedal

音色ストップ

音色ストップは、各鍵盤ごとに、いくつでも自由に組み合わせてセットすることができます。ストップは、すべてペロー式を採用しており、演奏中でも、ストップのON/OFFが容易に行えるようになっています。

●ONにする操作: ストップの先を軽く下方に押しさえ、指を離してください。ストップのランプが点灯して、ONになったことを示します。

●OFFにする操作: ストップの先を軽く上方に持ち上げ、指を離してください。ストップのランプが消え、OFFになったことを示します。



〔内蔵されている音色〕

音色ストップは、グレートに16(そのうち内蔵音色は13)、スウェールに16(そのうち内蔵音色は13)、ペダルに11(そのうち内蔵音色は9)あり、それぞれクラシックオルガンの伝統的な配列に準じて配置されています。(8・9ページのストップ一覧を参照)

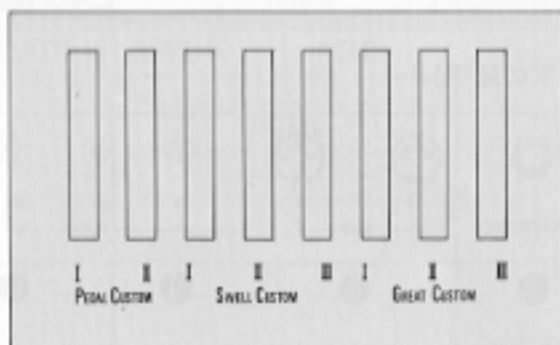
- フル管系統: オルガンの音づくりの基本となるプリンシパル系を含め、透明感のある音色を配置しています。
- ミックスチャー系統: 音色の輝きを高め、響きに厚みを加える複合音のストップです。
- コンパウンド: F-700特有のストップで、複数のストップを同時にONにした時の音がプリセットされています。
- リード管系統: 輝きのある豊かな音色のリード管系は、赤字で音色名が記入されています。

④ストップの組み合わせは、効果ストップも含めて、コンビネーションにプリセットすることができます。また、コンビネーションのボタンをONにすると、そのボタンにプリセットしたストップが、自動的にONになります。(→10ページ)

④キャンセルのボタン(コンビネーションの右横にあるE)を押せば、その時ONになっているストップを、一度にすべてOFFにすることができます。

〔カスタムトーン〕

各鍵盤のストップには、内蔵音色のほかに、カスタムトーンというストップが用意されています。これらのストップでは、カスタムトーンのパック(音色のデータをメモリーしたROMパック)をスロットに装着することによって、そのパックの音色が得られるようになっています。



パックを装着するスロットは、手鍵盤の右横にあるボックスの中にあり、ペダルカスタムI・II、スウェールカスタムI・II・III、グレートカスタムI・II・IIIの8つのスロットが、各鍵盤のカスタムトーンのストップに対応しています。なお、カスタムトーンのパックは、別売オプションとなっています。

- ④カスタムトーンのパックを装着していない状態では、カスタムトーンのストップをONにしても、音色は得られません。
- ④カスタムトーンのパックは、必ず、電源をOFFにした状態で装着してください。

25	26	27	28	29	30	31	32	33
COMPOUND	KRUMMHORN 8'	CLARION 4'	CUSTOM I	CUSTOM II	CUSTOM III	SOFT	TREMULANT	CHORUS

GREAT

34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
QUINTADENA 16'	PRINZIPAL 8'	GEDACKT 8'	GEMSHORN 8'	PRINZIPAL 4'	ROHR- FLÖTE 4'	NASAT 2 $\frac{2}{3}$ '	SUPER- OKTAVE 2'	WALD- FLÖTE 2'	MIXTUR 4f	COMPOUND	FAGOTT 16'	TROMPETE 8'	CUSTOM I	CUSTOM II	CUSTOM III	SOFT	CHORUS	SWELL TO GREAT

効果ストップ

効果ストップ(茶色)は、音色ストップと同様に、複数のストップを同時にセットすることができ、操作方法も音色ストップと同じです。また、音色ストップのセッティングと一緒に、コンビネーションにプリセットすることができます。

[ソフト]

このストップをONにすると、その鍵盤の音量をやや下げることができます。ある鍵盤の音だけを小さくして演奏したい時にお使いください。

[トレミュラント]

音量を周期的に変化させ、音に独特のうねりを与える効果です。スウェル鍵盤のストップに用意されており、軽やかで繊細なコンビネーションや、和音が静かに連続している箇所でも用いると効果的です。

[コーラス]

音にゆるやかな“ゆらぎ”をもたせ、豊かな広がりを与える効果です。グレート鍵盤とスウェル鍵盤のストップに、それぞれ用意されていますから、好みに応じてセットしてください。なお、F-700のコーラス効果は、デジタル方式を採用しています。

[カプラー]

ある鍵盤でセットしているすべての音色を、別の鍵盤でも発音させる働きをもったストップです。ひとつの鍵盤で、2つの鍵盤を同時に鳴らすのと同じ効果が得られますから、音量を増大させるとともに、音色の組み合わせを一層多彩なものにすることができます。

●**スウェルトゥー ペダル**:このストップをONにしてペダル鍵盤を押鍵すると、ペダルでセットしている音色とともに、スウェル鍵盤でセットしている音色も同時に発音します。

●**グレートトゥー ペダル**:このストップをONにしてペダル鍵盤を押鍵すると、ペダルでセットしている音色とともに、グレート鍵盤でセットしている音色も同時に発音します。

●**スウェルトゥー グレート**:このストップをONにしてグレート鍵盤を押鍵すると、グレートでセットしている音色とともに、スウェル鍵盤でセットしている音色も同時に発音します。

補カプラーをONにして、スウェルまたはグレートの音色を別の鍵盤で発音させている場合でも、スウェルまたはグレート鍵盤では、カプラーをOFFにしている時と同じように、それぞれのストップでセットした音色が得られます。

補カプラーを使用している時、スウェルまたはグレートでソフト、トレミュラント、コーラスの効果ストップがONになっていれば、それらの効果がかかった音色が、別の鍵盤で発音します。

〔ストップ一覧〕

※ストップの通しナンバーは、コンビネーションやクレッシェンドにセットするストップを、メモする際にご活用ください。

■ペダル鍵盤

音色	フルー管	1	プリンツィパール 16'	オルガンの基本音色。充実した響きを持つ。
		2	ズブバス 16'	オルガンのもう一方の基本音色。木管の柔らかい重低音。
		3	プリンツィパール 8'	オルガンの基本音色。充実した響きを持つ最も重要な音。
		4	シュピル フローテ 8'	木管の明るい音色。
		5	コラール バス 4'	音域が高く、柔らかくて明るいプリンシパルの音。
	ミックスチャー	6	ミックスチャー 4f	4音構成の混合音。シャープな倍音の多い明るい音色。
		7	コンパウンド (注1)	複数のストップを同時に入れた音。落ち着いた太い音色。
	リード管	8	ポザウネ 16'	太い金属的な音。
		9	トランペーテ 8'	きわめて明るい金属的な音。
	カスタムトーン	10	カスタムトーン I	PEDEL CUSTOM I のスロットに装着したCUSTOM TONEの音色。
		11	カスタムトーン II	PEDAL CUSTOM II のスロットに装着したCUSTOM TONEの音色。
効果		12	ソフト	ペダル鍵盤の音量を小さくする。
		13	スウェルトワー ペダル	スウェルトでセットしている音色をペダル鍵盤で発音させる。
		14	グレートトワー ペダル	グレートでセットしている音色をペダル鍵盤で発音させる。

■スウェル鍵盤

音色	フルー管	15	ホルツ プリンツィパール 8'	木製の柔らかく明るいプリンシパル音。
		16	ホール フローテ 8'	木製の柔らかく太い充実した音。
		17	ボア セレステ 8'	トレモロのようなうねりのある柔らかいストリング音。
		18	スピッツ プリンツィパール 4'	明るい金属的な音。プリンツィパール8'の1オクターブ上。
		19	ロール フローテ 4'	柔らかいフルートの音。
		20	ナザート 2 $\frac{2}{3}$ '	フルート系倍音の柔らかい5度系の音。
		21	プリンツィパール 2'	鋭いプリンシパル系の音。
		22	フラッハ フローテ 2'	柔らかいフルートの音。
		23	クヴァイント 1 $\frac{1}{3}$ '	プリンシパルの5度のソフトな音。
	ミックスチャー	24	シャルフ 3f	3音構成の鋭い混合音。
		25	コンパウンド (注2)	複数のストップを同時に入れた音。華やかな音色。
	リード管	26	クルム ホルン 8'	レガール類に属し、細いスケールで、ひかえ目なしの音。
		27	クラリオン 4'	明るく華やかな音。
カスタムトーン	28	カスタム I	SWELL CUSTOM I のスロットに装着したCUSTOM TONEの音色。	
	29	カスタム II	SWELL CUSTOM II のスロットに装着したCUSTOM TONEの音色。	
	30	カスタム III	SWELL CUSTOM III のスロットに装着したCUSTOM TONEの音色。	
効果		31	ソフト	スウェル鍵盤の音量を小さくする。
		32	トレミュラント	スウェル鍵盤の音にトレモロ効果をかける。
		33	コーラス	スウェル鍵盤の音にコーラス効果をかける。

■グレート鍵盤

音色	フルー管	34	クヴィンタデナ 16'	木管の柔らかさを持った、強い基音と第3倍音の音。
		35	プリンツィパール 8'	オルガンの基本音色。充実した響きを持つ最も重要な音。
		36	ゲダクト 8'	フルートに似た音色で、柔らかく、落ち着いた音色。
		37	ゲムス ホルン 8'	柔らかく、いぶし銀のような太い音。
		38	プリンツィパール 4'	オルガンの基本音色。プリンツィパール8'の1オクターブ上。
		39	ロール フローテ 4'	柔らかいフルートの音。
		40	ナザート 2 $\frac{2}{3}$ '	フルート系倍音の柔らかい5度系の音。
		41	スーパー オクターブ 2'	プリンツィパール8'の2オクターブ上。
		42	バルト フローテ 2'	暖かく幅広いフルートの音。
	ミックスチャー	43	ミックスチャー 4f	4音構成の混合音。シャープな倍音の多い明るい音色。
		44	コンパウンド (注3)	複数のストップを同時に入れた音。フルオルガンのような大きな音。
	リード管	45	ファゴット 16'	音程は低く軽い音。
46		トランペーテ 8'	明るい金属的な音。	
カスタムトーン	47	カスタム I	GREAT CUSTOM I のスロットに装着したCUSTOM TONEの音色。	
	48	カスタム II	GREAT CUSTOM II のスロットに装着したCUSTOM TONEの音色。	
	49	カスタム III	GREAT CUSTOM III のスロットに装着したCUSTOM TONEの音色。	
効果	50	ソフト	グレート鍵盤の音量を小さくする。	
	51	コーラス	グレート鍵盤の音にコーラス効果をかける。	
	52	スウェルトワー グレート	スウェルでセットしている音色をグレート鍵盤で発音させる。	

(注1)ペダルのコンパウンドの音色構成

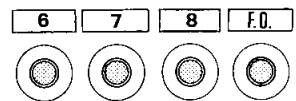
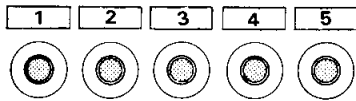
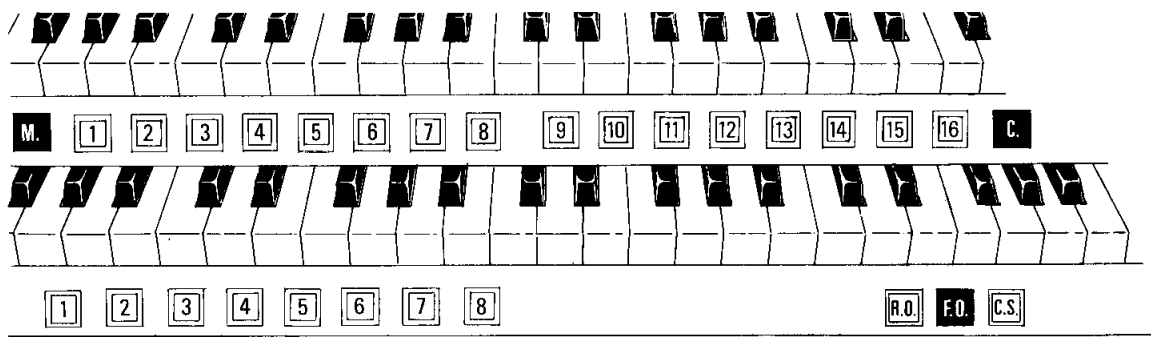
PRINZIPAL 16' SUBBUSS 16' PRINZIPAL 8' OKTAVE 8' METALLGEDACKT 8'
SUPER OKTAVE 4' ROHRFLÖTE 4' SUPER OKTAVE 2'

(注2)スウェルのコンパウンドの音色構成

HOLZGEDACKT 8' ROHRFLÖTE 4' NASAT 2 $\frac{2}{3}$ ' PRINZIPAL 2' TERZ 1 $\frac{1}{5}$ '
SIFLET 1'

(注3)グレートコンパウンドの音色構成

POMMER 16' PRINZIPAL 8' ROHRFLÖTE 8' OKTAVE 4' HOHLFLÖTE 4'
QUINTE 2 $\frac{2}{3}$ ' OKTAVE 2' CORNET 4-5f MIXTUR 5f ZIMBEL 3f FAGOTT 16'
TROMPETE 8' TROMPETE 4'



コンビネーション

各鍵盤のストップでセットした全体のレジストレーションを、あらかじめプリセットしておくことができる機能です。プリセットしたコンビネーションのボタン(またはトウピストン)を押せば、そのレジストレーションが即座に呼び出されますから、演奏しながら容易にレジストレーションの変更が行えます。

〔プリセットする手順〕

①プリセットするストップをONにする。

すべての鍵盤で、プリセットしたいストップをONにしてください。音色ストップだけでなく、効果ストップのセッティングもプリセットすることができます。

補 コンビネーションにレジストレーションをプリセットする時は、フルオルガンのボタンをOFFにしてください。フルオルガンのボタンがONになっていると、その時パネルでセットされているストップのON/OFF状態とは異なったレジストレーションがプリセットされてしまいます。

②メモリー (M.) ボタンを押しながら、数字のボタンをひとつ押す。



スウェル鍵盤下にあるボタンのうち、一番左にある赤いメモリー (M.) のボタンを押しながら、その右側にある数字のボタン (1~16) のひとつを押してください。押した数字のボタンが点灯し、レジストレーションがプリセットされたことを示します。

補 スウェル鍵盤下のコンビネーションボタンのうち、1~8のいずれかのボタンにレジストレーションをプリセットすると、グレート鍵盤下にある1~8の同じ番号のボタン、およびペダル鍵盤の上にある1~8の同じ番号のトウピストンに、同じレジストレーションがプリセットされます。

③同様の操作を繰り返し、別の数字のボタンにもレジストレーションをプリセットする。

レジストレーションは、1から16まで、最大16種類プリセットすることができます。演奏する曲目に応じて、必要なだけプリセットしてください。

〔再現する操作〕

①プリセットした数字のボタンをひとつ押す。



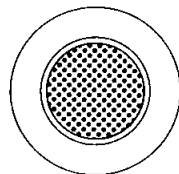
まず、演奏する曲の最初に使用するレジストレーションをプリセットしておいたボタンを押します。押したボタンのランプが点灯し、プリセットしておいたレジストレーションがパネルに再現されますから、演奏を開始してください。

②演奏中に、別の数字のボタンを押す。



レジストレーションを切り替えたい箇所、別の数字のボタンを押してください。レジストレーションが即座に切り替わります。レジストレーションの切り替えは何度でも可能です。

補 スウェル鍵盤下にある1~8のボタン、グレート鍵盤下にある1~8のボタン、およびペダル鍵盤の上にある1~8のトウピストンで再現されるレジストレーションは、番号が同じであれば同じレジストレーションになります。演奏中に、一番操作しやすい位置のボタンまたはトウピストンを押してください。



[コンビネーションのさまざまな使い方]

●レジストレーションを再現し、さらにストップを操作する。

コンビネーションのボタン(またはトウピストン)を押すと、プリセットしておいたレジストレーションがパネルに再現されますが、その時、パネルでOFFになっているストップをONにしたり、逆に、ONになっているストップをOFFにすることができます。この場合、同じコンビネーションのボタンを、もう一度押すと、パネルで増減したストップは、元の状態に戻ります。

●使用頻度に応じてプリセットする。

コンビネーションの①～⑧は、スウェル鍵盤下、グレート鍵盤下のボタン、およびトウピストンの3カ所で操作することができますから、使用頻度の高いレジストレーションは、これらのボタンにプリセットしておくくと便利です。

補コンビネーションにプリセットした内容は、電源をOFFにしても、内蔵の電池によってバックアップされます。(ただし、電池は充電式になっていますので、2か月以上ご使用にならない場合は、プリセットした内容が消える可能性があります。)

補クレッシェンドペダルを踏み込むことでONされたストップは、コンビネーションのボタンを押してもOFFにはなりません。(➡12ページ)

[キャンセル]

スウェル鍵盤下のコンビネーションボタンの右横にあるキャンセル(C)ボタンは、パネルでONになっているストップを、一度にすべてOFFにする働きをもっています。コンビネーションにレジストレーションをプリセットする際、いったんストップをすべてOFFにして、白紙の状態からレジストレーションをセットしたい場合は、このキャンセルボタンを押してください。

⑩キャンセルボタンでOFFにできるのは、手でONにしたストップ、およびコンビネーションで再現させたストップのみです。フルオルガンとリードオフの機能、およびクレッシェンドペダルによってセットしているストップはOFFにすることはできません。

フルオルガン

グレート鍵盤下にあるF.O.のボタンがフルオルガンのスイッチです。このボタンを押すと、ランプが点灯し、各鍵盤でフルオルガンの音が一度にセットされます。

フルオルガンでセットされる音色は、各鍵盤とも、コンパウンドとカスタムトーンを除くすべての音色ストップをONにした時の音色です。

補フルオルガンのスイッチは、ペダル鍵盤の上にあるトウピストンにも用意されていますから、演奏中にフルオルガンをON/OFFしたい場合は、操作しやすい方のスイッチを選ぶことができます。なお、フルオルガンのボタンとトウピストンは、同じ働きをしますから、ボタンのランプが点灯している時にトウピストンを押せばOFFになり、OFFの時にトウピストンを押せば、ボタンのランプが点灯しONになります。

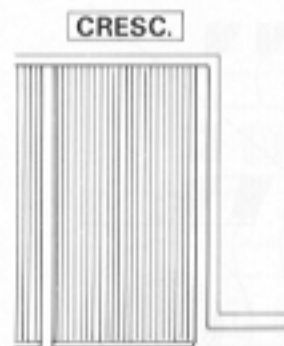
⑩フルオルガンをONにすると、コンパウンドとカスタムトーンを除くすべての音色が発音するようになりますが、ストップのランプは変化しません。この状態で、コンビネーションにレジストレーションをプリセットすると、その時のストップの状態ではなく、フルオルガンのレジストレーションが記憶されてしまいますので、コンビネーションにプリセットする際は、フルオルガンがOFFになっていることを確認してください。

リードオフ

フルオルガンの左にあるR.O.のボタンが、リードオフのスイッチです。このボタンを押すと、ランプが点灯し、その時各鍵盤でセットしているストップのうち、リード管の音色だけが発音しないようになります。

補フルオルガンをONにしている時、リードオフをONにすれば、フルオルガンに組み込まれているリード管の音色だけを発音しないようにすることができます。

⑩リード管のストップのランプが点灯している時、リードオフをONにすると、発音はしなくなりますが、ストップのランプは点灯したままになっています。



0

C.S.

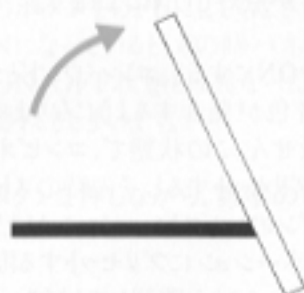
クレッシェンド

クレッシェンドペダルをコントロールすることによって、あらかじめセットしておいたストップを、徐々に加えたり、減じたりする機能です。演奏する曲目に応じて、任意のストップを任意の順序でセットすることができ、オルガン演奏の表現の幅を広げます。

〔セットする手順〕

①クレッシェンドペダルを一番手前まで起こす。
 エクスプレッションペダルの右にあるクレッシェンドペダルを、一番手前まで起こし、クレッシェンドディスプレイ(スウェルのストップの右横にあります)の表示を(0)にしてください。

ペダルを起こした状態



0

②キャンセルボタンを押す。
 キャンセル([E])ボタンを押して、パネルのストップおよびコンビネーションのボタンをすべてOFFにしてください。

C.

③フルオルガンとリードオフをOFFにする。
 フルオルガン([FO])、リードオフ([RO])がONになっている場合は、どちらもOFFにしてください。

補以上の操作を行わないと、クレッシェンドにストップをセットする状態には入れません。

④メモリー([M])のボタンを押しながら、クレッシェンドセット([CS])のボタンを押す。

[M.] [1] [2] ----- [C.S.]

スウェル鍵盤下にあるメモリー([M])のボタンを押しながら、グレート鍵盤下にあるクレッシェンドセット([CS])のボタンを押してください。クレッシェンドセットのボタンが点灯し、クレッシェンドにストップをセットできる状態になったことを示します。この時、クレッシェンドディスプレイの数字は、(0)から(1)に変わります。(ディスプレイの数字は、これからセットしようとするステップ数を示します。)

⑤任意のストップをひとつずつセットしていく。
 ストップをひとつONにするたびに、クレッシェンドディスプレイの数字がひとつずつ進み、ONにしたストップがクレッシェンドに順次セットされていきます。

1 → 2 → 3 → ----- 100

ストップのセットは、最大100ステップまで可能で、各鍵盤の任意のストップを、どのような順序でセットしてもかまいません。また、音色ストップばかりでなく、効果ストップもセットすることができます。

補あるストップと次のストップとの間に空のステップをセットし、間隔を空けることもできます。間隔を空けたい箇所、スウェル鍵盤下にあるコンビネーションの[100]のボタンを押してください。1回押すたびに、クレッシェンドディスプレイの数字だけが進み、空のステップがセットされます。また、間隔をたくさん空けたい場合は、[100]のボタンを押し続けてください。ディスプレイの数字が連続して進みます。

なお、[100]のボタンを押しすぎた場合は、コンビネーションの[15]のボタンを押してください。1回押すたびに、ディスプレイの数字が後退します。ただし、[15]のボタンで後退させることができるのは、[100]のボタンで空送りしたステップの分だけです。

補 クレッシェンドのセットの途中で、一度ONにしたストップを、OFFまたは再度ONする操作を行っても、クレッシェンドディスプレイは変化せず、何もセットされません。

補 クレッシェンドのセットの途中で、コンビネーションのボタンを押しても、コンビネーションにプリセットされているストップは再現されず、何もセットされません。

補 クレッシェンドのセットを最大の100ステップまで行くと、クレッシェンドディスプレイに[End]が表示され、それ以上、セットできないことを示します。

⑥ 必要なだけストップをセットしたら、クレッシェンドセットのボタンをOFFにする。



ストップのセット(および空送りのステップのセット)が必要なだけ終わったら、クレッシェンドセット(C.S.)のボタンを再度押してください。ボタンのランプが消え、クレッシェンドのセットは完了します。

補 クレッシェンドのセットは最大100ステップまで行うことができますが、100ステップに達する前でも、任意のステップで、クレッシェンドのセットを終了させることができます。この場合、終了した時点から100までのステップは、ステップを空送りのと同じセッティングになります。

補 クレッシェンドペダルを使用しない場合は、クレッシェンドにストップを何もONせずに、クレッシェンドセットを終了させることもできます。この操作を行っておけば、演奏中に誤ってクレッシェンドペダルを踏んでしまっても、ストップの状態は変化しません。

[再現する操作]

① クレッシェンドペダルを踏み込み、演奏を開始する。

クレッシェンドペダルを踏み込むと、クレッシェンドディスプレイの数字が進み、セットした時の順序で、ストップが順次ONになっていきます。任意のステップで、ペダルを止め、演奏を開始してください。

補 クレッシェンドディスプレイの数字は、クレッシェンドペダルの位置に対応してステップ数を表示します。この場合、表示される数字は偶数のみの2ステップ単位で進み、セットしたストップ(または空送り)も2ステップ単位で読み出されます。

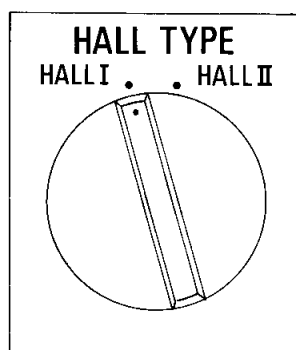
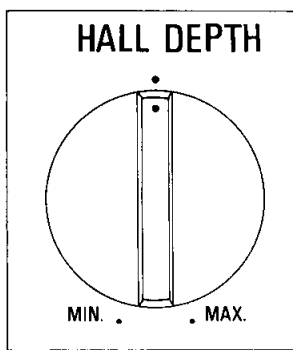
② 演奏中に、クレッシェンドペダルをコントロールする。

音色(または効果)を加えたい場合は、ペダルを踏み込んでください。現在のステップ以降にセットしたストップが順次ONになっていき、クレッシェンド効果が得られます。

また、音色(または効果)を減じたい場合は、ペダルを起こしてください。ストップが順次OFFされていき、デミスインド効果が得られます。

補 ペダルを最大まで踏み込むと、クレッシェンドディスプレイには[FuL] (フル)が表示されます。なお、ディスプレイは、クレッシェンドに何もセットしていない場合でも、ペダルの位置に応じて[0]から[FuL]まで変化します。

補 クレッシェンドペダルによって、セットしたストップを再現している時、さらにパネルでストップをON/OFFすることもできます。また、コンビネーションのボタンをONにすれば、その時ONになっていないストップがプリセットされていれば、そのストップはONになります。ただし、その時ONになっているストップは、コンビネーションのプリセットがOFFになっていても、OFFにはなりません。



ホール効果

音に残響をつけ、立体的で奥行きのある響きにする効果です。F-700では、残響の長さをコントロールできるばかりでなく、残響の種類が選択でき、設置場所などに応じて、独特の音場効果を創り出すことができます。

①ホールデプスで、残響の長さを設定する。

ホールデプスのつまみでは、残響の長さを設定することができます。中央が標準的な長さで、[MIN]側に回すと残響は短くなり、[MAX]側に回すと残響は長くなります。

②ホールタイプで、残響の種類を選択する。

ホールタイプのつまみでは、ホール効果をかけた時に得られる音場効果の種類を選ぶことができます。設置場所の規模や演奏曲目などに応じて、タイプI・IIのどちらかを選択してください。

●**タイプI**：教会風の音場効果が創り出される残響

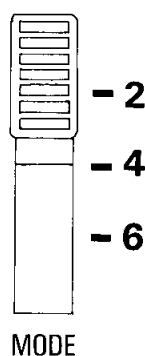
●**タイプII**：大聖堂風の音場効果が創り出される残響

[ホールバランス]



ホール効果をかけた時に得られる音場効果は、F-700の内部で、音を[MAIN] [FRONT] [REAR]の3系統のチャンネルに、バランスよく振り分けて出力することによって創り出されます。棚板下にあるホールバランスのつまみでは、これら3系統から出力される音量バランスを、必要に応じて調節することができます。(通常、3つとも最大にセットして使用します。)

[ホールモード]



リアパネルにあるホールモードのスイッチは、音場効果を創り出す音([MAIN] [FRONT] [REAR]の3系統)の出力のしかたを切り替える働きをします。このスイッチの設定が、アンプ・スピーカーの接続状態と異なっていると、適正な音場効果が得られません。使用するアンプ・スピーカーの数に応じて、次のようにセットしてください。(➡4・5ページ)

●**2**：アンプ・スピーカーを、[MAIN]の端子に2台（または1台）接続している場合にセットする。音響効果を創り出す[MAIN] [FRONT] [REAR]の3系統の音がF-700の内部でプラスされ、[MAIN]の端子から出力される。

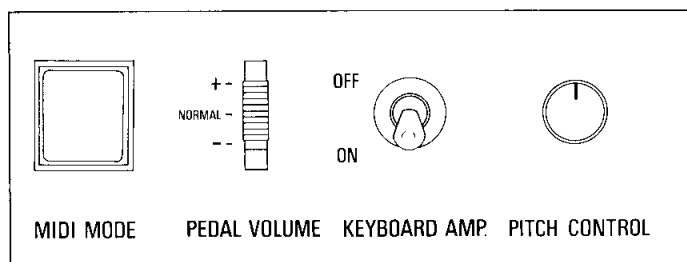
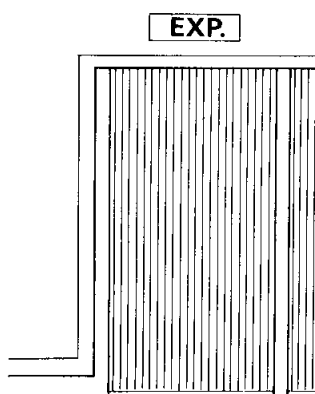
●**4**：アンプ・スピーカーを、[MAIN]端子に2台、[REAR]端子に2台の合計4台接続している場合にセットする。この場合、[MAIN]と[FRONT]の2系統の音は[MAIN]の端子から出力され、[REAR]の音は[REAR]の端子から出力される。

●**6**：アンプ・スピーカーを、[MAIN] [FRONT] [REAR]の端子をすべて使って6台接続している場合にセットする。この場合、3系統の音はそれぞれの端子から独立して出力される。この場合が、F-700の臨場感あふれる音場効果を最大限に生かすことができます。

その他の機能

〔エクスペッションペダル〕

演奏中に、音量に抑揚をつけることで、豊かな表現を可能にするペダルです。なお、F-700のエクスペッションペダルでは、全鍵盤の音量を同時にコントロールできるようになっています。

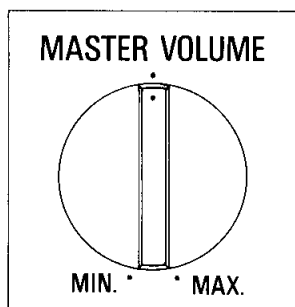


〔ピッチコントロール〕

全体のピッチを無段階に微調整することができるつまみです。中央が標準ピッチ ($A_4=440\text{Hz}$) で、可変幅は約 $440 \pm 8\text{Hz}$ となっています。

〔マスターボリューム〕

全体の音量をコントロールするつまみで、右に回すほど、音量が大きくなります。



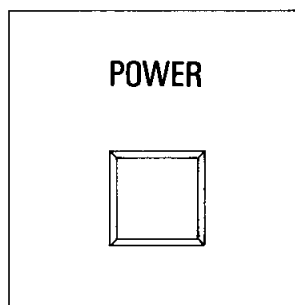
〔キーボードアンプスイッチ〕

F-700とキーボードアンプをリモート接続(➡4ページ)している際は、このスイッチで、キーボードアンプの電源をON/OFFすることができます。このスイッチをONにセットしておけば、F-700の電源に連動して、キーボードアンプの電源もON/OFFされます。なお、このスイッチを使う時は、キーボードアンプのパワースイッチを〔REMOTE〕側にセットしてください。

ヘッドホンからの音は、このスイッチのON/OFFとは関係なく得られますから、外部へ音を出したくない時などは、このスイッチをOFFにして、ヘッドホンをお使いください。

〔パワースイッチ〕

F-700本体の電源スイッチです。なお、キーボードアンプとリモート接続し、棚板下にあるキーボードアンプのスイッチをONにしておけば、本体の電源をONすることで、キーボードアンプの電源もONになります。



〔ペダルボリューム〕

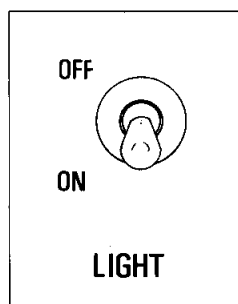
ペダル鍵盤の音量を、3段階に微調整することができるスイッチです。中央がノーマルな音量で、〔+〕にセットすると音量がやや大きくなり、〔-〕にセットすると音量がやや小さくなります。設置場所の音響特性などを確かめ、必要に応じて、セットしてください。

〔MIDIモード〕

MIDIによって、外部機器とデータをやりとりする際、各種モードの切り替えなどを行うためのスイッチです。詳しい操作方法については、18ページを参照してください。

〔ライトスイッチ〕

棚板下にあるライトのスイッチは、パネル面を照らすライトのON/OFFスイッチです。なお、フットライトは、パワースイッチに連動してON/OFFされます。



故障だとお考えになる前に

以下のような現象は故障ではありませんので、ご注意ください。このような現象でサービスをご依頼されますと、保証期間中であっても実費料金を申し受けますので、ご了承ください。

現象	原因と処置
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	近くで電気器具をON/OFFしたり、電気ドリルや故障したネオンサインなどを使用している場合は、雑音の入ることがあります。原因と思われる機器から、なるべく離れたコンセントをお使いください。
ラジオやテレビ、無線などの電波が入る。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるためです。どうしても気になる場合は、お求めの販売店または電音サービスセンター・サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビなどに雑音が入る。	ごく近くにラジオやテレビを置いてあると、雑音が入る場合があります。なるべく離してお使いください。
周囲の物が共鳴してビビる。	F-700の音は持続音であるため、周囲の窓ガラスや戸棚などの器物を共鳴させることがあります。気になる場合は、共鳴物を取り除くか、音量を小さくしてください。
スピーカーから音が出てこない。	①接続コード・ケーブルの接続を確認してください。②接続しているアンプ・スピーカーの電源がONになっているかどうかを確認してください。③本体のキーボードアンプスイッチを確認してください。
音が小さい。	①マスターボリューム、エクスプレッションペダルのセット位置を確認してください。②接続しているアンプ・スピーカーのボリュームを確認してください。
パネルでセットしているストップとは異なる音が出る。	①フルオルガンまたはリードオフがONになっています。フルオルガン、リードオフは、パネルのストップには再現されませんので、使用しない時はOFFにしてください。②ペダルまたはグレートで、カブラーのストップがONになっています。カブラーのストップがONになっていると、別の鍵盤でセットしているストップの音が同時に発音します。
カスタムトーンのストップをONにしても音が出ない。	①カスタムトーンのストップは、オプションのカスタムトーンパックを本体のスロットに装着することで発音ようになります。②カスタムトーンパックを装着する時は、いったん電源をOFFにしてから、装着してください。
コンビネーションを再現したら、プリセットした時とは異なるレジストレーションが再現される。	①コンビネーションにプリセットする際、フルオルガンがONになっていたためです。プリセットする際には、フルオルガンがOFFになっていることを確認してください。②クレッシェンドペダルを踏み込んでストップをONにしている時、コンビネーションをONにすると、コンビネーションにプリセットしたストップのうち、その時OFFになっているストップのみがONになります。コンビネーションにプリセットした時にOFFになっていたストップは、OFFにはなりません。
キャンセルボタンを押しても、パネルのストップがOFFにならない。	クレッシェンドペダルが踏み込まれて、クレッシェンドにセットされているストップがONになっているためです。クレッシェンドを使用しない時は、ペダルを一番手前に起こしておいてください。
メモリーを押しながらクレッシェンドセットを押しても、ランプが点灯しない。	①クレッシェンドペダルが一番手前まで起こされ、クレッシェンドディスプレイの数字が0になっているかどうかを確認してください。②パネルのストップおよびコンビネーションがすべてOFFになっているかどうかを確認してください。③フルオルガンとリードオフがOFFになっているかどうかを確認してください。
ホール効果による立体的な音場効果が得られない。	ホールモードのセッティングが、現在のアンプ・スピーカーの接続状態に合っていないためです。リアパネルにあるホールモードスイッチを適切な位置にセットしてください。

●鍵盤

グレート鍵盤:61鍵(C₁~C₆) 木製 トグルタッチ

最大同時発音数:16音

スウェル鍵盤:61鍵(C₁~C₆) 木製 トグルタッチ

最大同時発音数:16音

ペダル鍵盤:32鍵(C₀~G₂) 扇型または平行型

最大同時発音数:16音

●音色ストップ

グレート鍵盤:クヴィンタデナ16', プリンツィパール8', ゲダク
ト8', ゲムスホルン8', プリンツィパール4', ロール
フローテ4', ナザート2 $\frac{3}{8}$ ', スーパーオクターブ
2', バルトフローテ2', ミックスチャー4f, コンバ
ウンド, ファゴット16', トランペーテ8', カスタムI,
カスタムII, カスタムIII

スウェル鍵盤:ホルツプリンツィパール8', ホールフローテ8',
ポアセレステ8', スピッツプリンツィパール4', ロ
ールフローテ4', ナザート2 $\frac{3}{8}$ ', プリンツィパ
ール2', フラッハフローテ2', クヴィント1 $\frac{1}{2}$ ', シャル
フ3f, コンバウンド, クルムホルン8', クラリオン
4', カスタムI, カスタムII, カスタムIII

ペダル鍵盤:プリンツィパール16', ズブバス16', プリンツィ
パール8', シュベルフローテ8', コラールバス4',
ミックスチャー4f, コンバウンド, ポザウネ16', ト
ランペーテ8', カスタムI, カスタムII

●効果ストップ

グレート鍵盤:ソフト、コーラス、スウェルトゥーグレート

スウェル鍵盤:ソフト、トレミュラント、コーラス

ペダル鍵盤:ソフト、スウェルトゥーペダル、グレートゥーペダ
ル

●コンビネーション

スウェル鍵盤下:メモリー、1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、
13、14、15、16、キャンセル

グレート鍵盤下:1、2、3、4、5、6、7、8

トゥピストン :1、2、3、4、5、6、7、8

●フルオルガン・リードオフ

グレート鍵盤下:フルオルガン・リードオフ

トゥピストン :フルオルガン

●クレッシェンド

クレッシェンドペダル、クレッシェンドセット、クレッシェンドデ
ィスプレイ(3桁デジタル表示)

●ホール効果

ホールデプス、ホールタイプ(I・II)、ホールバランス(メイン
フロント・リア)、ホールモード(2・4・6)

●メインコントロール・その他

エクスペッションペダル、マスターボリューム、パワースイ
ッチ、パネルライトスイッチ、ピッチコントロール、キーボードアン
プスイッチ、ペダルボリューム、MIDIモード

●付属端子・スロット

カスタムトーンパック用スロット:ペダルカスタムI・II、スウェルカ
スタムI・II・III、グレートカスタムI・II・III

メインアウト(キヤノン):ライト、レフト、モノ

ホールアウト(フォーン):リアL・R、フロントL・R

その他:リモート、ヘッドホン、MIDIイン・アウト、オークスイン、
オークスアウトL・R、MPC-10受信ユニット接続用コネクター
(×2)

●定格電源電圧・周波数

AC100V・50/60Hz

●定格消費電力

280W

●寸法

本体:間口152.0cm

奥行120.1cm(ペダル鍵盤含む)

高さ125.5cm

椅子(扇型):間口128.0cm、奥行35.0cm、高さ63.5cm

(平行型):間口147.5cm、奥行35.0cm、高さ63.5cm

●重量

本体:230kg

ペダル鍵盤(扇型):38kg

(平行型):37kg

椅子(扇型):22kg

(平行型):33kg

●外装

リアルウッド ウォルナット

F-700は、先進のデジタル楽器ならではのMIDI機能を備えており、棚板下にあるMIDI端子に他のMIDI対応機器を接続するだけで、演奏データなどをやりとりすることができます。なお、F-700のMIDI機能は、主な使用方法として、ヤマハのMIDI対応レコーダーと接続し、演奏の記録/再生を行うことを想定した仕様となっています。

〔送/受信できる主なデータ(電源ON時のモード)〕

- 鍵盤のON/OFFデータ(ノートオン・オフ)
 - スウェル鍵盤:1チャンネルで送/受信
 - グレート鍵盤:2チャンネルで送/受信
 - ペダル鍵盤:3チャンネルで送/受信
 - ストップのON/OFFデータ(プログラムチェンジ)
 - スウェル鍵盤のストップ:1チャンネルで送/受信
 - グレート鍵盤のストップ:2チャンネルで送/受信
 - ペダル鍵盤のストップ:3チャンネルで送/受信
 - スイッチ類の切り替えデータ(プログラムチェンジ)
 - コンビネーションの切り替え:16チャンネルで送/受信
 - フルオルガンのON/OFF:16チャンネルで送/受信
 - リードオフのON/OFF:16チャンネルで送/受信
 - バルクデータ(エクスクループメッセージ)
 - パネルの状態:チャンネルに関係なく送/受信
 - コンビネーションのメモリー内容:チャンネルに関係なく送信(電源ON時の状態では受信しない)
- クレッシュェンドペダルとエクスプレッションペダルのコントロールデータ、およびクレッシュェンドのメモリー内容は、送/受信しないようになっています。

〔MIDI対応レコーダーの使用法〕

ヤマハのMIDI対応レコーダーを使用すれば、演奏の記録/再生を容易に行うことができます。接続方法については5ページを、記録/再生の詳しい操作方法についてはMIDIレコーダーの取扱説明書を参照してください。

- 演奏の記録:レコーダーを記録可能状態にし、F-700で演奏を開始してください。各鍵盤の演奏データ、演奏中に操作したストップのON/OFFデータ、コンビネーションによるレジストレーションの切り替えデータなどがリアルタイムに記録されます。
- 演奏の再生:レコーダーで再生をスタートさせる操作を行えば、記録したデータがF-700に送信され、自動的に演奏が再生されます。

■ 演奏を開始した時のパネルの状態、およびコンビネーションのメモリー内容も、バルクデータとして記録することができます。操作方法は、MIDI対応レコーダーの取扱説明書に従ってください。記録したバルクデータは、再生のスタート時にF-700に送信され、記録を開始した時のパネルの状態が再現されます。

なお、コンビネーションのメモリー内容を受信すると、現在の内容が記録した時の内容に置き替わってしまいますので、電源ON時のモードでは、コンビネーションのメモリー内容は受信しないようになっています。

〔鍵盤のON/OFFのみ送/受信するモードへの切り替え〕

下記の操作を行えば、ストップのON/OFFデータ、コンビネーションの切り替えデータ、フルオルガン・リードオフのON/OFFデータなどが送/受信されないモードに切り替わります。このモードに切り替えれば、鍵盤のON/OFFデータのみが、チャンネルメッセージとして送/受信されるようになります。

- MIDIモードスイッチを押しながら、グレート鍵盤のC₁のキーを押す。

なお、電源をいったんOFFにするか、または電源ON時に、MIDIモードスイッチを押しながらグレート鍵盤のC₁のキーを押せば、左記の電源ON時のモードに戻ります。

〔コンビネーションのメモリー内容を受信するモードへの切り替え〕

下記の操作を行えば、MIDIレコーダーの再生時に、記録したコンビネーションのメモリー内容を受信し、記録時の内容に置き替わるようになります。この操作は、現在のコンビネーションの内容を消しても良い場合に行ってください。

- MIDIモードスイッチを押しながら、グレート鍵盤のD₁のキーを押す。

なお、電源をいったんOFFにするか、または電源ON時に、MIDIモードスイッチを押しながらグレート鍵盤のD₁のキーを押せば、コンビネーションの内容を受信しない状態に戻ります。

〔送/受信チャンネルを変更する操作〕

下記の操作を行えば、鍵盤とストップのON/OFFを送/受信するチャンネルを変更することができます。(電源をいったんOFFにすると、変更前のチャンネルに戻ります。)

- スウェル鍵盤:MIDIモードスイッチを押しながら、スウェル鍵盤のC₂~D₃(送信チャンネル1~16に対応)、C₄~D₅(受信チャンネル1~16に対応)のいずれかを押す。
- グレート鍵盤:MIDIモードスイッチを押しながら、グレート鍵盤のC₂~D₃(送信チャンネル1~16に対応)、C₄~D₅(受信チャンネル1~16に対応)のいずれかを押す。
- ペダル鍵盤:MIDIモードスイッチを押しながら、ペダル鍵盤のC₀~D₁(送信チャンネル1~16に対応)、E₁~G₂(受信チャンネル1~16に対応)のいずれかを押す。

Electone Classic F-700

MIDI インプリメンテーションチャート

Date: 3/20 1988
Version: 1.0

ファンクション	送 信	受 信	備 考
ベーシックチャンネル 電源ON時 設定可能	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル 16チャンネル ○	1チャンネル 2チャンネル 3チャンネル 16チャンネル ○	スウェル鍵盤/ストップ グレート鍵盤/ストップ ペダル鍵盤/ストップ コンビネーション, C, F.O., R.O. 全鍵盤/ストップ
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	モード3 × ×	
ノートナンバー 音域	36-96 36-96 36-67 *****	36-96 36-96 36-67 36-96 36-67	スウェル鍵盤 グレート鍵盤 ペダル鍵盤 スウェル、グレート鍵盤 ペダル鍵盤
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○9nH, v=64 ○9nH, v=0	○9nH, v=1 127 ○9nH, v=0, 8nH, v=0-127	
アフタータッチ キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチベンダー	×	×	
コントロールチェンジ 81	○	○	キャンセル *
プログラムチェンジ 設定可能範囲	0-37 0-33, 36-39 0-21, 32-33, 40-43 48-63 64-67 *****	0-37 0-33, 36-39 0-21, 32-33, 40-43 48-63 64-67	スウェルストップON/OFF * グレートストップON/OFF * ペダルストップON/OFF * コンビネーション * R.O., F.O. ON/OFF *
エクスクルーシブ	○ **	○ ***	
コモン ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム クロック コマンド	× ×	× ×	
その他 ローカルON/OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	× ○123-127 **** ○ ○	
備考	* 電源ON時のモードでのみ送/受信。 ** バルクデータを送信。 *** バルクデータの送信要求、およびバルクデータ(コンビネーションのメモリー内容を除く)を受信。(電源ON時) **** 各鍵盤のベーシックチャンネルおよびコントロールチャンネルで受信。		

モード1: オムニ・オン, ポリ モード2: オムニ・オン, モノ
 モード3: オムニ・オフ, ポリ モード4: オムニ・オフ, モノ

○: あり
×: なし

アフターサービスと保証

保証

保証期間は、保証書の裏面の記載により、ご購入から満1か年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は、一切いたしません。また、保証は日本国内でのみ有効といたします。

保証書

納入の際、保証書をお渡しいたしますので、大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には、納入調整者が保証書内に必要事項を記入のうえ、発行いたしますので、記載事項をご確認ください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は、弊社がご購入いただいたお客さまに、ご購入の日から向こう1か年間の無償サービスをお約束申しあげますが、万一紛失なさいますと、保証期間中であっても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように、充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など、便利にご利用いただけます。

保証期間中のサービス

- ①保証期間中に万一故障が発生した場合には、ヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと、販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整・修理にお伺いします。
- ②保証書は、サービスにお伺いした際に今後の製品改良の貴重な資料とするため、技術者がお預かりさせていただきます。お預かりした保証書は、弊社電音サービスセンター、サービスステーションに送られ、記録した後、直接お客さまにご返送申しあげます。この間、約1週間～10日間程度を要しますが、ご心配なくお待ちください。
- ③遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ楽器店あるいは弊社電音サービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申しあげますとともに、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1か年の保証期間が切れますと、サービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、8年となっております。保証期間以後の移転の場合も、保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転後のサービス担当店をご紹介いたします。

サービスのご依頼

- ①電源が入らない場合は、コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。
- ②電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかを確認させていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いいたします。
- ③できれば実際に楽器をお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えば、あらかじめ用意する部品などの検討がつき、スムーズにいきます。
- ④時々調子のおかしくなるような場合は、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。例えば、●夜間だけ音が小さい●ある時間だけ雑音が出る●電源を入れるだけで雑音が出る、などの場合です。
- ⑤機種名など、サービスご依頼の機器に関する詳細は、保証書をご覧になってお知らせください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただきますために、ぜひお願いいたします。
- ⑥これだけはお知らせください。
ご住所・お名前・ご連絡先・ご購入店・お買い上げ年月日・機種名(モデル名)……保証書に記載されています。
症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

- ①お仕事の関係で、昼間ご不在のお客さまや、留守がちなお客さまは、できるだけお伺いする日時をお約束させていただきます。
- ②万一お約束した日時のご都合が悪くなった場合には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
- ③お店にサービスをご依頼なされたにもかかわらず、日時が経過してもなおサービス員がお伺いしない場合には、お手数でも下記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

YAMAHA電気音響製品サービス拠点(修理受付および修理品お預かり窓口)

東京	電音サービスセンター	TEL. 044-434-3100	〒211	川崎市中原区本月1184
新潟	電音サービスステーション	TEL. 025-243-4321	〒950	新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F
大阪	電音サービスセンター	TEL. 06-877-5262	〒565	吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内
四国	電音サービスステーション	TEL. 0878-22-3045	〒760	高松市丸亀町8-7 ヤマハ・髙松店内
名古屋	電音サービスセンター	TEL. 052-652-2230	〒454	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ・髙名古屋流通センター
九州	電音サービスセンター	TEL. 092-472-2134	〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4
北海道	電音サービスセンター	TEL. 011-513-5036	〒064	札幌市中央区南十条西1-4 ヤマハセンター
仙台	電音サービスセンター	TEL. 022-236-0249	〒983	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F
広島	電音サービスセンター	TEL. 082-874-3787	〒731-01	広島市安佐南区西原2-27-39
浜松	電音サービスセンター	TEL. 0534-65-6711	〒435	浜松市上西町911(ヤマハ・髙宮竹工場内)
本社	電音サービス部	TEL. 0534-65-1158	〒435	浜松市上西町911

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

- エレクトーン事業部 〒430 浜松市中区町10-1
TEL 0534-60-2191
- 東京事業所 〒104 東京都中央区銀座7-9-18パールビル
TEL 03-572-3140
- 大阪事業所 〒542 大阪市南区南船場3-12-9心斎橋ブラザビル東館
TEL 06-252-7541
- 名古屋事業所 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL 052-201-5140
- 九州営業所 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL 092-472-2152
- 北海道営業所 〒064 札幌市中央区南十条西1-4ヤマハセンター
TEL 011-512-6114
- 仙台営業所 〒980 仙台市大町2-2-10住友生命仙台青葉通ビル
TEL 022-222-6141
- 広島営業所 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL 082-244-3748

エレクトーン®は当社の登録商標です。

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION
ヤマハ株式会社

YAMAHA feelin' club



T4960693006313